

受験番号

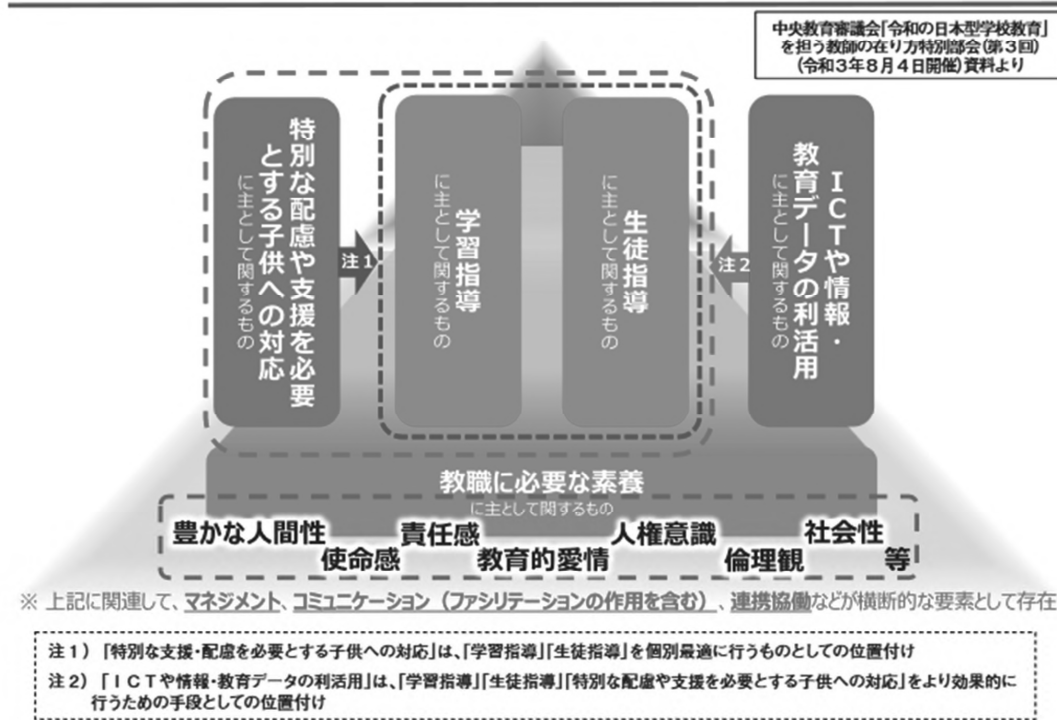
コース：授業実践力向上コース

※

令和3年1月26日に中央教育審議会において、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が取りまとめられ、教師の実現すべき姿として、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たす能力も備えていることが示された。また、具体的に必要な資質能力として、ファシリテーション能力やICT活用指導力等が挙げられていることなども踏まえ、下図のように、教師に求められる資質能力が構造的に再定義された。

図表 1-1-3 教師に共通的に求められる資質能力

教師に共通的に求められる資質能力



(『令和4年度文部科学白書』9頁より)

(問) この図にある「教職に必要な素養(豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情、人権意識、倫理観、社会性等)」は、大学教育4年間で培われるものではなく、幼少期から青年期を通じて培われるものである。これらの素養を培うために、義務教育においてこういった取組ができるか、あなたの被教育経験を参考に1200字程度で論じなさい。

解答

Table with 10 columns and 10 rows for writing the answer.

コース：授業実践力向上コース

---

【出題の意図】

図にある「教職に必要な素養（豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情、人権意識、倫理観、社会性等）」について、1～2個挙げた上で、具体的にどのような性質のものであり、教育においてどうして必要なのかについて、説明した後に、解答者自身の被教育経験においてどのように育成されてきたのか、省察することが求められる。

そして、その被教育経験を参考にしながら、解答者が教師として義務教育現場に立った時、児童生徒にどうやって指導していくことができるのかについて論じる問題である。

例えば、『人権意識』について、多様性が求められる現代社会において、人権意識を持って生活することは主権者として、市民として求められているため、学校現場でも児童生徒に育成していくべきである。中学生の時には、人権教育を受け、学年でグループに分かれて性差別についてディスカッションをしたことがある。自分が小学校教師になったら、高学年ならディスカッションもできると考えるので、総合的な学習の時間を使って取り組んでみたい」などの記述が考えられる。